

3-7					
主題	ご利用者が地域生活を実感できるデイサービスの取り組み				
副題	おらが町、ぼくらはみんな生きている				
キーワード 1	地域資源	キーワード 2	生きがい支援	研究(実践)期間	36ヶ月

法人名・事業所名	社福) ウエルガーデン ウエルガーデン伊興園
発表者(職種)	高尾佳朗(フロアリーダー)、佐々木由香子(介護職員)
共同研究(実践)者	山下好子(通所介護課長)、岩田有佳乃(地域包括支援センター長)

電話	03-5691-9501	FAX	03-5838-1325
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	ウエルガーデン伊興園は足立区伊興に平成13年に開設した通所介護です。一般型通所介護定員50名、認知症対応型通所介護定員12名で、ほかに特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを併設し、施設全体で自立支援に取り組んでいます。
-------	---

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当デイサービスは認知症対応型も含めて定員約60名の大型施設です。その中でサービスは決まりきった「施設内完結型」のものが多く、開設当初より地域の多くのボランティアの受け入れなど行ってきた。しかしご利用者にとっては多くが受け身のもので、せっかくデイサービスに通っても、場所を変えただけで外出にはなっておらず、提供するサービスも職員主導になりがちな環境にあった。そういったことから施設自体がコロニー(閉鎖的な居住区)になりがちで、外へのアプローチが少なく、周辺地域との繋がりとといったことについてはまだまだ途上段階といったところにあり課題となっていた。そこで「地域に根ざし地域連携の核になるデイサービスになるにはどのような取り組みや繋がりが必要なのか」、また「ご利用者がこの地域で暮らしているという実感と生きがいを感じる事ができるために何ができるのか」を職員で検討し、多部署との連携も図りながら活動を実践していくこととした。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

この取り組みを通して、ご利用者・職員・施設すべてが地域社会との交流を深めて地域にいることを実感できるようになる。一人一人が生きがいを感じ、役割があるという自信を取り戻すことができ、地域の方やご利用者の家族にとっても当デイサービスが大切なものとなっていくことを目的とした。さらにそのことがご利用者の社会参加・心身生活機能の向上となり、ご家族の介護負担軽減へと繋がっていくことを期待する。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

#### ① ボランティアの受け入れ

近くの保育園・小学校・中学校やボランティア団体等に声をかけ、行事やイベントに参加してもらい交流の輪を広げる。職員の知り合いなど積極的に働きかけをし、折り紙や将棋、手話など

をご利用者と一緒に活動してくれるボランティアを募集し、受け入れることとした。

## ② 伊興（憩う）マルシェの開催

当デイサービス独自の地域住民との交流の場として平成26年11月より毎年開催している。近隣のコンビニなどにもポスターで告知を行い、バザーや豚汁・お餅の販売のほか、バルーンアートなどのイベントで、ご利用者・そのご家族・地域住民が一緒になって参加されている。

## ③ 施設内外での活動

### ・施設内活動

屋上や庭での野菜栽培や施設まわりの花壇や鉢の手入れ、自分たちが乗る送迎車の洗車、昼食の食器等の洗浄、といった施設内での作業を行う。

### ・買い物散歩

昼食で提供する味噌汁の具材やおやつの買い出しを毎日職員とともに3～4人程度のご利用者とお掛けスーパー・コンビニ等で買い物する。

### ・お掃除

足立区と公園自主管理契約を結び、8月より実施に向け参加アンケートの結果30名以上の希望者があり、定期的な清掃活動を行っている。

これらの活動について参加者に対しアンケートを行った。

## 《4. 取り組みの結果》

### ① ボランティアの受け入れについて

ボランティア参加者が徐々に広がり、定期的に活動される方が増えている。

### ② 伊興マルシェについて

地域のイベントとして認知度も上がり来場者が増え、地域の交流の場になっている。

### ③ 施設内外での活動について

ご利用者の約6割の方が何らかの活動に参加し、アンケート結果そのうちの70%程度の方が「楽しいから続けて行きたい」との声があるなど意欲向上がみられた。

## 《5. 考察、まとめ》

この取り組みを続けていくことで地域における当デイサービスの存在を知ってもらうとともに、ご利用者が施設内外での役割を見つけだしていくことで地域住民の一員と感じ、このことが自立支援、生きがい支援へと繋がっていくと考える。「被介護者」が「地域資源」となることは認知機能や心身機能も高まっていくと考える。

## 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

## 《7. 参考文献》

「栃木県内社会福祉施設による地域貢献活動事例集」(平成27年3月)

社会福祉法人栃木県社会福祉協議会社会福祉施設部会栃木県社会福祉法人経営者協議会

## 《8. 提案と発信》

今後、学童に行けない児童を利用者がいる時間帯に対応し寺小屋的活動をしたり、祝祭日に保育園児を受け入れご利用者とかかわりをもってもらったり、そのママにはママ会の場を提供するなどして、生活文化や地域文化の継承の場として介護を行う以外での役割を果たしていくことで、地域でのデイサービスとしての存在価値をさらに生み出していくことになるのではないか。